

未来都市創造に関する特別委員会 参考人との意見交換のまとめ

① 大項目	② 中項目	③ 委員意見・質問	④ ③に対する参考人の意見
歴史資源を活かしたまちづくり	歴史の活用	地域の歴史は、観光資源として魅力があることはもちろんだが、それに加えて歴史を知ること、純粋にノスタルジーを感じるだけでなく、その時代のライフスタイルや考え方を、現在そして未来の魅力的・理想的な暮らしにつなげていけるという意味があるのではないか。そういう観点で、歴史というものがどういう意味を持つのか、改めて考える必要があると思うが、ご意見を伺いたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・そもそも歴史とは、無数にある過去の事実のうち、ある時期、ある場所で、ある人にとって意味があり、未来に影響を与えた事実のことをいう。 ・関西では、1185年、1596年に大地震の影響を受けた。その間隔は約400年で、1596年から約400年後は1995年となる。厳密な予知ではないが、このことから、少なくとも2400年頃は何か起こるかもしれないと注意した方がいいということが、歴史から読み取れる。 ・1596年の震災時の記録では、大阪・堺・京都等では建物が崩れて大勢の人が亡くなったとあるが、神戸だけが大火災となっている。神戸は傾斜が急なので川に水がなく、阪神・淡路大震災の際も畳で無理やり川を堰き止めて火事を消した。こうした体験から、神戸では水で火を消すことが未来のまちの安全のために必要だと、歴史が教えてくれている。 ・例えば灘区の城ノ下通は、かつてあの上に摩耶山城という城があったから城ノ下という地名になった。また、現在ある道路は、昔の人々が生活するのに便利で使っていた峠や道が大半で、元々道がなかった所に机上の計画で造った芦有道路などは歴史的な背景もなかったので無駄になってしまった。 ・歴史の果たす役割の3分の1はノスタルジーで、残りの3分の1は現在の問題を解決する手がかり。今直面している問題は全て歴史の中に原因があり、現在の問題を解決するには歴史を振り返るのが手取り早いと言える。
	広報・発信方法	まちづくりという観点で歴史資源の活用について考えると、一過性のイベントで終わらせるのではなく、近隣に住む市民にも関心を持ってもらい、上手に巻き込んでいく必要があると思うが、どのような工夫が考えられるかご教示願いたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・市外から観光客を集客するだけでなく、市内に住む人たちに誇りや愛着を持ってもらうための施策も大事である。 ・ガイドブックのように本にまとめる形でもいいし、若い人向けならユーチューブがいいと思う。兵庫津周辺ではいろんな所にQRコードをつけて、それを読み込んで説明を聞いてもらうというやり方をしている。受け取る側の年代によって得意・不得意があるので、映像も含めて、発信する手段はできるだけいろいろと活用すべきではないか。
	インパウンド対策	今後、神戸空港が国際化して、外国人観光客に神戸の歴史資源を見てもらうことは非常に大事なことだと思う。日本の歴史について事前知識のない外国人に最初の取っかかりになるようなものが必要になると思うが、誘導する手法についてアイデアがあればご教示願いたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば、オーストラリアのような平らな国の人にとっては、布引の滝のような滝は珍しい。日本は本当に凸凹の多い国なので、そういう国の人にとっては経験できないような自然がある。 ・兵庫津ミュージアムのような建物を外国人は喜び、そういう場所から観光を始める。外国人は兵庫大仏も驚くので、併せて鶴越の大仏まで連れて行くのもいいのではないかと。歴史的なもの、現代のモダンなものを組み合わせて楽しんでもらうということが大事。 ・外国人観光客向けにぜひPRして欲しいのが有馬芸妓で、兵庫県では有馬にしか残っていない。 ・外国人観光客向けの観光コースを企画することがあればいつでも相談して欲しい。 ・いずれにしても、外国語（英語に加え、中国語、韓国語、スペイン語）の情報は必ず出すべき。
観光資源の活用	西国街道の街並みや暮らしの再現	当時の神戸の西国街道や周辺の街並みがどんな様子で、人々が西国街道沿いでどんな風に生活していたのかを、市民や観光客に実感してもらえるような工夫ができないか、ヒントや他都市の事例をご教示願いたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・どの時代・時期を切り取るのか、時代によって西国街道や周辺の街並みの様子は違う。 ・三重県の関では、江戸時代の終わり頃の建物が複数残っていたので、それに合わせて街並みを整備し、宿場町として観光地にしている。 ・神戸でも明治以前から、兵庫津と、元町6丁目から大丸まで（今の元町本通り）は家がずっと並んで相当大きな町場を形成していた。兵庫津ミュージアムの1階には、明治初め頃のこうした街並みを絵にして展示している。 ・堺は、神戸と同じように昭和20年の空襲で木造の建物がほぼ壊滅したので石造りのものしか残っていないが、千利休が生まれた場所と明治時代の与謝野晶子の生まれた家の間に「利晶の館」という博物館施設を造り、1階のホールに江戸時代の堺のまちの絵地図を展示するなど、観光資源としての活用に成功している。 ・JR神戸駅前再整備の中で街道自体を復元するのは無理だが、例えば旧西国街道の部分の舗装の色を変えるなど、そこが旧西国街道だと分かるようにするだけでも違うのではないかと。このほか、JR三ノ宮駅東のダイエーの山側に西国街道の碑と説明板がある。元町4丁目のまちづくり会館を出た所にも西国街道の説明板がある。このように西国街道の説明板を設置するのも意味がある。
	西国街道の広報・発信方法	今でも西国街道沿いに案内看板が設置されている所があるが、近代的なデジタルサイネージやVR、アプリの活用など、打ち出し方のヒントがあればご教示願いたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は様々な発信方法があるが、受け取る側の年代によって得意・不得意がある。様々な世代を網羅できるように、発信する手段はできるだけ幅広く活用して併用していくべき。
観光資源の活用	城	(市内の歴史的資源を活用したまちづくりの具体的なアイデアについて)	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的資源として、まず目立つものに城がある。兵庫県は城の数が日本一で、神戸市内だけで103か所の城が確認されている。その中で、城主の名前やどんな出来事があったかが分かっている、構造も地形が少し残っているといったものが30か所ほどある。 ・御影城（東灘区）：城ノ前、綱敷天神、弓弦羽神社、石屋川・新田川・深田池・天神川 ・摩耶山城（灘区）：城ノ下通、滝山城（中央区）：城山、松永久秀、三好長慶 ・花隈城（中央区）：兵庫城（兵庫区）：池田恒興、丹生山城・淡河城など（北区） ・会下山（長田区）：楠木正成の陣跡（会下山） ・松岡城（須磨区）：飛松が丘、勝福寺、太平記、足利尊氏、福中城・枝吉城（西区）：高山右近 ・例えば、市内の30か所の城をめぐるスタンプラリーを企画するのも面白いのではないかと。それぞれ城の近くの店舗等にスタンプを置いてもらい、御朱印帳のように1回100円で押してもらえば、店の人も潤い、観光客も達成感が生まれる。今、西播磨で山城のスタンプラリーが非常に人気である。 ・以前に交通局に相談を受け、市バス・地下鉄の乗客数増加を目指して、一宮神社から八宮神社までのラリーを企画した。その時も参加者の達成感が必要だからと、各社務所にスタンプを置いて1回100円で押してもらった形にしたが、最終的にスタンプ帳を1万部発行した。

未来都市創造に関する特別委員会 参考人との意見交換のまとめ

① 大項目	② 中項目	③ 委員意見・質問	④ ③に対する参考人の意見
観光資源の活用	<p>滝</p> <p>土木遺産</p> <p>峠・道</p> <p>歴史上の人物に関わる墓、石碑、銅像等</p> <p>言い伝え、地名等の活用</p>	<p>(市内の歴史的資源を活用したまちづくりの具体的なアイデアについて)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・六甲山の南の断層に沿って、滝めぐりのスタンプラリーをするのも面白いかもしれない。 ・突き上げの断層で六甲山地ができており、川は断層ができたら滝となり落ちる。 ・生田川の滝が布引の滝で、平安時代の終わり頃には関東の華厳の滝などはまだ知られておらず、日本一は那智の滝、布引は日本で第二の滝だと源平盛衰記にも書かれ、和歌も多く詠まれている。 ・宇治川の断層面が山手短大の校舎の北側にあり、あまり見えないが、山手の短大の校舎の北側に滝が1つある。 ・天王谷川では、祇園の奥に大きい滝があり、神が宿る場所として神戸駅から鈴蘭台に行く路線バスの停留所に高座という所があるが、かつて高座の滝という大きな滝があった。昭和13年の阪神大震災で崩れたらしい。天王谷川にも高座の滝がある。 ・石井川には千鳥の滝という江戸時代の名勝がある。 ・布引は新幹線の駅から歩いて10分で行けるので、布引の滝を中心にこうした滝をめぐるラリーをしてはどうか。観光に使われないのはもったいない。 ・神戸は世界に冠たる土木の文化遺産がある。神戸市が明治22年の4月1日に誕生した直後に、上水道の建設と運河の建設と湊川の付け替えという3大土木事業を民間の力を活用しながらやった。 ・布引上水道周辺の施設は、日本で最初の上水道用の施設で国の重要文化財である。 ・烏原の水源地にはかつて烏原村という村があり、全村移転をするため、布引より完成が遅れた。つまり烏原村は、ダムの中に沈んだ村の第1号になる。こういうストーリーで、日本遺産に登録する動きが出てきてもいいのではないか。 ・兵庫運河は日本で最大規模の運河だが、小樽運河などと比べるとまだまだ知名度が低く、PR不足である。 ・湊川隧道は1900年に完成したが、当時の世界のダムリストの中でビッグ10に入るダムで、世界最大級のものだった。毎年11月18日前後に、湊川隧道保存友の会がイベントを開催し、隧道の公開をしているが、本来は神戸市を挙げて、日本中に発信する必要があるのではないか。 ・白川峠や、魚屋道、有馬街道、住吉川の上流にある五助堰堤（砂防堰堤、登録有形文化財）などの魅力的なルートを使って何か企画できるのではないか。奈良県では柳生街道（古道・峠道）が観光地として成功している。 ・六甲山頂にある一軒茶屋の東に「石の宝殿」という雨乞いの聖地がある。今でも水不足の時に周辺自治体の水道関係者が訪れたり、梅田の新地の女性たちが水商売の神様としてお参りに来ている。 ・市内には歴史上の人物に関わる石碑（墓・顕彰碑・モニュメントなど）が多くあるので（例：楠木正成、足利尊氏、新田義貞、豊臣秀吉・ねね、水戸光圀、エルビス・プレスリー、モーツァルトなど）、これらをめぐるツアーを企画してもいいのではないか。 ・それぞれの土地にまつわる言い伝えや地名だけでもいろいろ活用できるのではないか。未来の市民のために、地域の人たちも喜び、市外からも楽しみに来てもらえるようなことを具体化して企画して欲しい。
観光資源の活用	SDGs	<p>市内各地の歴史資源を1つのテーマやストーリーでつないで打ち出していくことで、より魅力的な観光資源になるのではないか。その際には、同じ時代だけではなく、時代を超えた様々な歴史資源をつないで、あたたかも様々な時代を回遊している、様々な時代を行き来しているように感じてもらえる仕掛けが作れたら面白いと思う。特に神戸ならではの視点に立ったテーマやストーリーを打ち出すという観点で、参考になるような歴史資源とそれにまつわるテーマやストーリーがあれば御紹介いただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸市内には歴史的資源が無数にある。 ・持続可能という観点でいえば、淡河川疎水のサイフォンなど、電力を使わずに水を連通管の原則で流している。 ・明治時代に、湊川と生田川を堰き止めて布引の貯水池と烏原の水源地を造り、大正になって宝塚と三田の間に千苺の水源地を造った。千苺の水源地の水は、西宮の上ヶ原の上水道で浄化して神戸へ来るが、一切電力を使わず、千苺から上ヶ原まで自然流下になっている。浄化された後の水が神戸へ来るための導水路を地下に埋没させて、上に建物を建てたらいざというときに困るので、建てないように道路にしたのが灘区の水道筋である。 ・エネルギーの節約、持続、保存という観点で、100年以上前にそういうことをやっていたというのはすごいことで、こういうこともPRしていくべきではないか。 ・兵庫運河ができた時に、船が通る上に和田岬線を走らせたが、船が通る時に困るため回転橋を造った。今、日本で残っている一番古い回転橋が和田岬線と兵庫運河の交差点にある。現在はコンクリートで固定しているが、ぜひこの回転橋も活用すべき。
観光資源の活用	市電	<p>今後、神戸市電を過去のシンボリックなものとしてクローズアップしていくべきだと思っている。市民のシンボリックな思いを醸成し、神戸市電を観光資源として活用するためのアイデアがあればご教示願いたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸の市電は日本で一番センスがよかった。車両の色がツートンカラーで、全国どこに行ってもあんな電車は走っていなかった。今、ヨーロッパでは電車が市内交通の主役になって復活しているが、ああいう新しいファッショナブルな車両と比べても、神戸の市電は遜色なかったと思う。 ・ただ、これだけ車が普及している状況の中で市電を復活させるのはなかなかスムーズにいかないのが、路線を1か所決めて走るというようなことを考えて、それに賛同してくれる人が増えたら、また路線を延ばしたり増やしたりしてはどうか。 ・かつて、実現はしなかったが、須磨区の天井川の河川敷を走らせようという話が出たことがある。神戸市電は今見ても非常にファッショナブルなので、いい観光資源になると思う。

未来都市創造に関する特別委員会 参考人との意見交換のまとめ

① 大項目	② 中項目	③ 委員意見・質問	④ ③に対する参考人の意見
観光資源の活用	<p>大河ドラマの活用</p> <p>神戸・大阪間鉄道開通150年の活用</p>	<p>(市内の歴史的資源を活用したまちづくりの具体的なアイデアについて)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸では地理的な環境から、歴史上の天下分け目の戦い(古代と中世の変わり目には一ノ谷の戦い、中世前期と後期の変わり目に湊川の戦い、中世と近世の変わり目には花隈合戦など)が頻繁に行われた。 ・NHKの大河ドラマは観光施策には非常に有効で、大河ドラマで取り上げられた人や場所に関わる土地には必ず観光客が来る。大河ドラマは特に激動期が面白く、神戸ではそのような時期に必ず決戦が行われていた。つまり、どんな大河ドラマにも神戸は関わっているということ。そういうことから考えれば、神戸観光局に専任でなくてもいいので1人、大河ドラマ担当を決めておき、ノウハウを蓄積していくことが非常に大事になる。 ・「八重の桜」は新島襄の妻の八重の話だが、八重が新島襄の前に結婚していた男性のお墓が出石にあるというだけで、観光客が出石に行った。あまり知られていないが、明治の初めに新島襄名義の土地が神戸にあった。アメリカ人の教師が新島襄に名義を貸してもらい、土地を借りて開学したのが神戸女学院である。新島襄が亡くなった後、八重が相続し、所有者になっていた。そういうこともPRすればよかった。 ・「麒麟がくる」のときも、あの松永久秀が神戸にあった滝山城の城主だったことを全くPRしていない。 ・来年の「どうする家康」も神戸には関係ないと思われるが、家康の息子の秀忠は、結婚式の1週間前に有馬温泉に入っていた。何かでつなげたら必ず観光客は来る。ぜひ積極的に活用して欲しい。 <ul style="list-style-type: none"> ・再来年は神戸・大阪間鉄道開通150年なので、これに合わせていろいろな企画を打ち出すべき。 ・例えば、関東にもなかった鉄道の遺産としては川底トンネルがある。石屋川、住吉川、芦屋川、湊川にあったが、これについては、当時、ロンドンの新聞で大々的に報じられているほど。ぜひ活用すべき。 ・明治7年の開通時、有馬温泉の最寄駅が住吉駅だったため、JR住吉駅の山手にある商店街を有馬道商店街といい、道標が多く残っている。昔の有馬道が住吉谷に入り、明治の初めに県道に指定された。150年に合わせて、こういう歴史を説明板にして設置したら面白いのではないか。 ・JR住吉駅の山手で二股に道が分かれ、その真ん中に古い道標で、左も右も有馬道と書いてある。こうした住吉川沿いの面白いルートも活用すべき。 ・和田岬線を廃線するという話があるが、和田岬線は間違いなく観光資源になる。鉄道150年では和田岬線も活用すべき。 ・交通に関するギネス記録的なものが神戸には多い。日本で最も短い国道が174号線、新幹線の上を地下鉄が通るといって地下鉄名谷駅一学園都市間の立体交差など、交通ギネスで結びつければ確実に観光客は来ると思う。
観光資源の活用	朝ドラの活用	<p>かつてNHKの朝ドラ「ゲゲゲの女房」の時に、兵庫区水木通に水木しげるのペンネームの由来になった場所があることを神戸市は一切PRしなかった。まさかあそこまでヒットするとは思ってなかったようで、後になって悔やんだと聞いている。来年の朝ドラの主演の牧野富太郎は会下山に住んでいたなど神戸と関わりがある。市立博物館や池長孟とのつながりもあるので、今度こそしっかりとアピールしてもらいたいと思うが、ご意見があれば伺いたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・かつて兵庫区に住んでいた水木しげるは、アパートの水木荘という名前からペンネームを付けた。その後に引っ越した西宮市今津では、水木しげるの住んでいた家の跡に記念碑を建てている。本家本元の水木通には何もないので、ぜひ記念碑を造るべき。 ・神戸にゆかりのある水木しげると、鉄人28号の横山光輝、宝塚の手塚治虫とで連携して、何か企画できるのではないか。日本のアニメは世界的に人気があるので、これはぜひやった方がいいと思う。
観光資源の活用	ウォークラリー	<p>歴史資源の活かし方として、ウォークラリーを企画するというのは面白いと思う。その際に、どこか1か所でウォークラリーをすると、その時には一定の集客があっても、そこで終わってしまうイメージがある。市バスの八社巡りも今ひとつ広がりを見せなかった。そこで、例えば、市内の歴史資源(城、峠、川、滝、地名など)全てを網羅したようなウォークラリーを企画してはどうか。昔、国鉄時代に全ての路線を巡る人たちがいたが、例えばこれを全て達成するには2年かかりますというような、高い達成感を持てるラリーなどを企画したら面白いと思う。それに合わせて、神戸の観光資源全ての解説が1冊にまとまり、それを持って巡ってもらえるようなガイドブックを作成するというのはどうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸は都会でありながら自然も十分楽しめるという他にない個性がある。例えば、城や滝などに関連して、区ごとやテーマごとに何コースか作ってみて、反響が大きければまた続編で増やしていくといった格好にしたらいのではないか。 ・ガイドブックについては全ての情報を1冊にまとめるのは無理だと思うので、シリーズ化してはどうか。 ・先日、交通局の職員と仕事をしたが、八社巡りのことを知らず、非常に驚いた。担当者が異動したらそこで途切れてしまって、後任者に引き継がれていない。大河ドラマで「平清盛」をやっていた時は、清盛館など観光施策で打ち出していたが、終わったら解散してしまった。どんな企画でも一過性でなく、継続的にやっていくことが本当に重要。

「歴史的資源を活かしたまちづくり」 提言素案（たたき台）

【未来に向けた歴史の活用】

- ・地域の歴史に観光資源としての魅力があることはもちろんだが、歴史を知ること、その時代のライフスタイルや考え方を、現在そして未来の魅力的・理想的な暮らしにつなげていくということに意味があるのではないか。例えば、関西では1185年、1596年、1995年と約400年ごとに大地震が起こっており、2400年頃にまた震災が起こるかもしれないと予想されるが、これまで神戸では大震災時に必ず火災で大きな被害が出た。このことから考えれば、未来のまちの安全のために何が必要か、対策を取ることができるのではないか。このように、過去の歴史を現在そして未来の問題を解決する手がかりとして役立てるべきである。

【広報・発信方法】

- ・歴史資源を活用したまちづくりを行うにあたっては、市外からの観光客を集客するだけでなく、市民に誇りや愛着を持ってもらうことも重要である。一過性のイベントで終わらせるのではなく、地域住民にも深い関心を持ってもらえるよう工夫を行い、受け取る側の属性に合わせて、書籍やYouTube、QRコードなどあらゆる方法を駆使して発信し、上手に巻き込んでいく必要がある。

【インバウンド対策】

- ・神戸空港が国際化した際に、日本や神戸の歴史について事前知識のない外国人観光客にも神戸の歴史資源を十分楽しんでもらえるような工夫が必要である。国や宗教など観光客の属性にも留意し、それぞれに分かりやすく誘導しやすい発信を行って欲しい。その際には、神戸独自の特徴である、古くからの歴史的なもの、開港以降のモダンなものを組み合わせて楽しんでもらうという視点が大事である。

【観光資源の活用】

（西国街道の活用）

- ・神戸には西国街道という素晴らしい歴史資源があるが、現在は街道が分断されるなど当時の街並みが非常に分かりづらく、観光資源として今一つPRできていないと感じる。そこで、当時の西国街道や周辺の街並みや当時の人々の暮らしを、市民や観光客に実感してもらえるよう、例えば、街並みを絵や地図で再現して展示したり、街道沿いに説明用のQRコードを設置したり、旧街道の舗装の色を変えるなど、工夫できないか。
- ・現在でも旧西国街道沿いには案内看板が設置されているが、情報を受け取る側の年代によって得意・不得意があるので、様々な世代を網羅できるように、デジタルサイネージやVR、アプリの活用も含め、属性に合わせてできるだけ幅広い手段を併用しながら発信すべきである。

(SDGs)

- ・市内各地の歴史資源を、他都市にない、神戸独自のテーマやストーリーでつないで打ち出していくことで、より魅力的な観光資源になるのではないかと。その際には、同時代という切り口だけではなく、時代を超えた様々な歴史資源をつないで、訪れた人にあたかも様々な時代を回遊している、様々な時代を行き来しているように感じてもらえる仕掛けを作るべきである。例えば、持続可能というテーマで、電力を使わずに水を連通管の原則で流している、淡河川疎水のサイフォンや、宝塚と三田の間に千苜貯水池を造った事例など、エネルギーの節約、持続、保存という観点で、100年以上前にそういうことをやっていたことをPRすることも重要ではないか。

(土木遺産の活用)

- ・重要文化財の布引水源地水道施設や、建設のため全村移転して建設された烏原貯水池、日本で最大規模の兵庫運河、完成当時に世界のダムリストのビッグ10に入った湊川隧道など、世界に冠たる土木の文化遺産が神戸には多くある。こうした土木遺産をテーマに歴史資源をつないで打ち出してはどうか。烏原貯水池は建設に至るまでのストーリーもあるので、日本遺産への登録を目指してもいいのではないかと。市を挙げて、国内外に積極的に発信していくべきである。

(神戸市電の活用)

- ・神戸市電を過去の遺産としてクローズアップし、観光資源として活用すべきである。市民の思いを醸成し、賛同者を増やすことで、1か所だけ路線を復活させるような企画を考えてみてはどうか。神戸市電はツートンカラーで、今見ても非常にファッショナブルなデザインなので、市民や鉄道ファンだけでなく、一般の観光客にとってもいい観光資源になる。2024年は神戸・大阪間鉄道開通150年なので、ぜひこれに合わせて企画して欲しい。

(大河ドラマや朝ドラの活用)

- ・神戸では地理的な環境から、歴史上、時代の転換点になるような戦いや事件が頻繁に起こっており、NHKの大河ドラマなどで取り上げられる人物や場所は何らかの形で神戸と関わりがあることが多い。大河ドラマは観光施策に非常に有効であり、大河ドラマと関連付ければ必ず観光客が来る。これまで、例えば「平清盛」などでは放映時に市を挙げてPRしていたが、それ以外にも多くの大河ドラマに神戸が関わっている。例えば、「八重の桜」の主人公八重は、移転前の神戸女学院と関わりがあり、「麒麟がくる」の松永久秀は今の中央区にあった滝山城の城主だったが、どちらも放映時に全くPRしていない。大河ドラマを有効に活用するための観光施策を早急に検討して欲しい。

- ・同様に、観光施策として、NHKの朝ドラの効果的な活用も積極的に検討するべきである。例えば、かつて「ゲゲゲの女房」放映時には、主人公の水木しげるのペンネームの由来になった場所が兵庫区水木通にあることを一切PRしなかった。来年の朝ドラの主役の牧野富太郎は会

下山に住んでいたなど神戸と関わりがある人物で、市立博物館や池長孟とのつながりもあるので、今度こそストーリー化してしっかりと市内外にアピールし、集客につなげてもらいたい。

(和田岬線の活用)

- ・2024年は神戸・大阪間鉄道開通150年なので、これに合わせて関連する歴史資源をつなげた企画を打ち出してはどうか。例えば、鉄道遺産として、日本で残る最古の旋回橋のある和田岬線など、鉄道開通150年に合わせてストーリー化してはどうか。
- ・このほか、鉄道遺産として、当時欧米でも珍しかった川底トンネルや、開通当時、住吉駅が有馬温泉の最寄駅だったことから今も住吉周辺に残る地名や道標も、鉄道開通150年に合わせて観光資源としてアピールしてはどうか。
- ・また、神戸には交通に関するギネス記録も多い。日本で最も短い国道174号線や、新幹線の上を地下鉄が走る地下鉄名谷駅・学園都市間の立体交差など、ギネス記録で結びつけば、鉄道ファンだけでなく一般の観光客の集客にもつながるのではないか。

(石碑、銅像など観光スポットの活用)

- ・神戸には、歴史上の人物に関わる石碑、墓所、モニュメントなどが多くある。市内に点在する史跡をテーマやストーリーを持たせてつなげることで、市外からの観光客だけでなく市民にも楽しんでもらえるようなツアーを展開することができるのではないか。

(歴史資源の活用したウォークラリーやガイドブックの企画)

- ・歴史資源の活かし方として、市内の歴史資源全てを網羅するようなウォークラリーを企画してはどうか。昔、国鉄時代に全ての路線を巡る人たちがいたが、同じように、例えば全て達成するには何年もかかるような、時間はかかるが達成感の高いラリーを企画したら面白いのではないか。神戸は都会でありながら自然も楽しめるという他にない個性がある。例えば、城や滝など観光資源のテーマや区ごとに何コースか作り、反響が大きければまた増やしていくといった形にしてもいい。ウォークラリーに合わせて、神戸の歴史資源全てを解説するガイドブックをテーマ別などで作成し、それを持って各地をめぐってもらえるようにすればいいのではないか。いずれにしても、どんな企画でも一過性で終わらせるのではなく、継続的に行うことが重要である。